

ふきのと

2004
春号
No.006



市立秋田総合病院の 思い出を語る

▲昭和30年代の市立秋田病院

この写真の頃の市立病院は、周囲を田んぼに囲まれ、ゆったりとした時の流れる所だったように思います。

看護学校で初めて白衣を着たその日から、この病院でたくさんの患者さんと仲間に出会ったことが大切な思い出となっています。

若くして亡くなられた患者さんが最後にご家族と私たちに「ありがとう」という言葉を残してくださったことがありました。私の人生もかくありたいと日々を精一杯楽しく生きるようになりました。

また、「あなたのその一言で私たちは家族で幸せなひと時を過ごせました。」と患者さんとそのご家族からクリスマス之夜お電話をいただいたこともありました。

私たちが看護師として人間として患者さんを思い、精一杯関わらせていただいた結果、患者さんからいただく言葉がどんなに私たちの励みになることか。患者さんから

人生を学び、患者さんから仕事を続けるエネルギーをいただいています。

また、共に仕事をしてきた素晴らしい仲間たちも忘れることができません。

これからはますます、時の流れも速く、医療への要求も高度になってくるでしょう。忙しいときほどしっかり足を踏みしめ、充実していることに幸せを感じて仕事をしたいものです。

今、私自身が皆さんのお陰で活かされていたのだなとしみじみ感じております。

市立秋田総合病院で私が出会ったたくさんの方々に「ありがとう」の言葉を贈ります。

●文／中村トシ副看護部長



救急には強いスクラムが必要

家族や自分が急に具合が悪くなった時、どこに行きますか？24時間そのニーズに応えるよう、働いている場所が救急集中治療室(ER・ICU)です。「ふきのとう」紙上でその内容をお知らせしていきます。今回はその第1回で円山先生にお話を伺いました。



救急集中治療室は救急患者さんを24時間受け入れる救急外来と重篤な患者さんを多くの医療機器を用いて集中的に入院治療を行う集中治療室(ICU)からなっています。ICUは市民の皆さまに質の高い医療を提供できるように、平成13年4月に開設されました。また、平成14年には秋田大学に次いで秋田県では2番目の日本集中治療医学会の専門医研修施設になりました。

ICUでは、種々の最新の医療機器を用いた治療や各種のモニターを用いて、重篤な患者さんに対して集中的な治療を行っています。そのため、一般病棟よりは、いろんな医療機器の動作音や警報音等の音がよく聞こえ、また急変にいつでも対応できるように室内も明るくなっており、まさに“不夜城”に近い所でもあります。その中で、できるだけ、患者さんに快適な環境下で、高い医療を提供できるように常に努力しています。



入室された重篤な救急患者さんの多くは元気に、一般病棟に退室されます。が、これは私たちの力だけによるものではありません。病院に来るまでに協力いただいた多くの方がいて初めてなしえることなのです。何か変だ！と気づいたら直ぐにそばにいた人が119番通報して救急車を呼ぶ。救急車が来るまで、患者さんの具合を観察し、必要ならできる応急手当をする。そして助けてあげたいという気持ちと一緒に救急隊に患者さんの状態を伝え、救急隊が車内で必要な処置を行いながら、病院に搬送するという「救命のリレー」がしっかりしているからできたことなのです。ラグビーが盛んな秋田だから、このような全国よりも強い市民、消防、病院間のスクラムが組めるようになったのかも知れません。



▲円山先生
えんざん

新しい放射線治療装置が稼動しました

2004年2月から、放射線治療の新しい機械が稼動しました。これは主に悪性腫瘍の治療に用いますが、CT検査で得られた断層像をもとに腫瘍の形に合わせた治療が可能で正常組織への被ばくを減らすことができます。このためより高い治療効果が期待され、副作用も軽くなります。向かって左にあるのがCT、右が放射線治療装置です。これらが一体化している装置は東北地方で初めてとなります。頭部・頸部・胸(肺・乳房など)・腹・骨盤部(直腸・前立腺・子宮など)・骨など体のいろいろな部位に放射線をかけることができます。



▲松平先生・平野先生



タバコ、やめられませんか!?

たばこの害が知られてきています。いろいろな部位の悪性腫瘍との関連もいわれてきていますし、肺が真っ黒になった写真を見たことのある方もいらっしゃると思います。今回は、**手術との関係**を麻酔科の重臣先生から解説してもらいました。



手術のための麻酔の説明をする時にお酒のことを気にされる方は多いのですが、タバコのことを心配される方はほとんどいらっしゃいません。でも、実はお酒よりもタバコのほうが、手術・麻酔に大きく関係しているのです。せっかく手術が無事に終わったのに、その後の経過が思わしくなくて、亡くられるようなことがあります。その原因として最も多いのが、肺炎などの呼吸器合併症です。タバコは、この手術後の呼吸器合併症の発生率を3倍高くしてしまうのです。喘息や肺気腫など、元々肺の病気がある人の場合だと、その発生率は10倍にも上ります。生命の危険を感じるほどではありませんが、タバコを吸う人では麻酔中の痰の量が多く、ときに痰が気管支に詰

ではありません。タバコを吸う人は傷の治りが遅く、さらに痛みにも敏感になるため、手術後の痛みを長時間にわたり強く感じて過ごすこととなります。

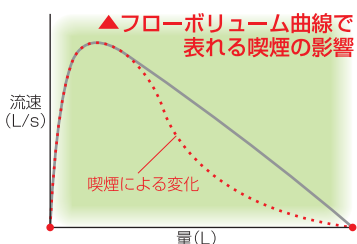
では、タバコによる悪影響を減らすのには、どれほどの期間タバコを我慢しないとイケないのでしょうか？

残念ながら1週間や2週間ではあまり効果は上がりません。最低4週間の禁煙を続けることにより、このような合併症をかなり減らすことができると言われています。ところで、タバコの影響で病気になった人の医療費の額をご存知でしょうか。1990年の時点ですでに3兆2000億円で、実に医療費全体の10%に相当しています。大人一人当たり1年に5万円もの額を、タバコの影響で病気になった人のために負担していることになるのです。

誰にも迷惑をかけていないと思っている愛煙家の皆さん、ご自分のために、そしてみんなのために、禁煙していませんか？



▲重臣先生
しげのみ



※フローボリュームとは、勢よく息を吐いた時の流量を記録したもの。

まって肺が膨らまなくなってしまうことがあります。程度問題ですが、酸素の取り込みがあまりに悪い場合は人工呼吸器が必要になることもあります。タバコが関係するのは呼吸器合併症の発生率だけ

タバコとビタミンC

タバコを吸うと、ビタミンCが消耗します。喫煙者の血液中のビタミンC濃度が低いのは明らかですが、ビタミンCがたくさん含まれている果物類のいちご・みかん天然果汁・キウイフルーツ・ネーブルオレンジなどや、野菜類のブロッコリー・菜の花・小松菜・ほうれんそうなどを摂っても非喫煙者の基準にかならず回復するという保証はありませんから、ご用心を。

やはり、**健康は禁煙が一番。**



禁煙と禁煙補助薬

タバコの代わりにガムを噛んだり、飴を舐めたりして禁煙を試みたけど、挫折してしまった方は、その原因の1つにタバコが吸いたい、イライラなどの離脱症状が現れたためと思われる。離脱症状は、体がニコチン不足になって出てきます。ガムや飴にはニコチンが含まれていないので、タバコの代わりにはならなかったのです。最近いろいろな禁煙補助製品が販売されていますが、色々試してみたけどどうもいかなかった方は、ニコチン含有のガムや貼付薬などがありますので試してみたいかがでしょうか。ただし、医師の処方が必要なものや、薬局でしか購入できないものもありますので、医師や薬剤師にご相談ください。



院内完全禁煙にご協力を!!

当病院では、患者のみなさんの健康を守るため、平成16年3月1日より院内を完全禁煙とすることにしました。ご理解とご協力をお願いいたします。



女性外来を開設しました

男性には相談しづらい身体的・精神的な悩みについて、女性医師が相談をお受けします。相談時間は約30分で予約制となっております。なお、女性外来を受診後、必要な場合には各専門診療科の受診をお勧めしますが、必ずしも女性医師が担当できないことがありますので、あらかじめご了承ください。

- 相談日** 毎月第3水曜日・第3木曜日 (祝日の場合は休診します)
- 相談時間** 午後2時30分～4時30分 (1人あたり約30分)
- 相談場所** 4階 健康管理センター内
- 料金** 2,500円(税別)
- 予約先** 事務局医事課 / Tel.018-823-4171 (内線2150・2164)



花一輪に四季をそえて

看護師長 加藤 ひろ子さん

花は野にあるように…という言葉は、茶祖の利休居士の教えですが、これがなんとも平凡で難しい。大自然に咲いているような、清々しさの中に、凜としたものを感じさせないと、相手の心の中に溶けこむことは難しい。草花に限らず、普段着のままの方が、ずっとその人らしい、と言うことがよくある。この普段着の心こそが、花を生ける場合に良く当てはまると思う。私が日々の中で、花を生ける事をやめることが出来ない理由の一つでもある。また、花を見てもらうことで入院中の患者さんの安らぎになってくれば、微妙に移ろう季節感を感じてもらえたら、と言う私のメッセージでもある。



病院近景

病院正面から川尻総社通りに向かうと右手に見えるのが一乗院。文亀二年(1502)常陸国佐竹十七代義舜の創建で、慶長七年(1602)に佐竹氏遷封とともに秋田に移り、

寺町(現在の西方寺)に位置したが、明和四年(1767)の大火で焼失した。その後、城中三の丸に再建、更に明治維新でその一部が現在地に移転した。大正十一年(1922)、再度火災にあい、仮本堂のまま現在に至っている。室町時代に作られた弘法大師の像があったが、市指定文化財として今は普傳寺に保管されている。真言宗智山派、本尊は不動明王で、住職は普傳寺と兼任されている。



読者の声



酒井 貴さん

ナースキャップが廃止になりしばらく経ちますが、看護師さんのイメージが柔らかくなり、自然体になった感じがとても良いと思います。新規採用の方の写真を載せた表紙では、病院職員に対する親近感を覚えめました。病んでいる時にかけてくれる声で安心できる、そんな病院であり続けて欲しいです。

児玉 喜代子さん

家族の具合が悪くなったとき、対処の判断ができずに困った経験があります。症状が出たときの注意点などアドバイスが書かれている記事は見やすく、役に立つと思います。院内の絵や写真は、記事で紹介したり、場所を変えたりできれば多くの方の目に触れて良いのではないのでしょうか。



市立秋田総合病院

- 理念** ● 市立秋田総合病院は、全ての人々の幸福のため、良質で安全な医療を提供し続けることを目指します。
- 基本方針** ● 患者さんに信頼される暖かい、心の通い合う医療を行います。
- 多様化する医療への要望に応えるために、常に医療水準の向上に努め、地域の中核病院としての役割を果たします。
- 患者さんの権利や意思を尊重し、十分な診療情報の提供と相互理解に基づく医療を行います。
- 医療の安全の更なる向上に努めます。
- 良質な医療を提供していくために、健全な病院経営を目指し、業務の改善と効率的な運営に努めます。



市立秋田総合病院広報紙 平成16年2月26日発行(年4回発行)No.006